

湯原地区元気な地域づくり計画書

未来へ受け継ぐ郷

～ I LOVE ゆのほら ～



◇期 間 平成22年度～平成25年度

平成22年7月策定

湯原地区元気な地域づくり委員会

目次

第1章 総論

1. 湯原地区元気な地域づくり計画の意義	1
(1) 元気な地域づくり計画書策定の趣旨	1
(2) 計画の構成	1
(3) 計画の期間	1
(4) その他	1
2. 湯原地区の概要	2～6
(1) 位置、人口・世帯数・就業人口の推移等	2
(2) 産業、教育	3
(3) 湯原地区の文化財と地域行事等	4
3. 元気な湯原をつくるための意識調査にみる地域住民のニーズ	7～10
4. 地域づくりの夢ビジョン	11

第2章 基本構想

1. 地域づくり基本理念	12
2. 地域づくりの基本目標	13
3. 地域づくりの体系図	14

第3章 事業計画等

1. 湯原地区元気な地域づくり事業及び活動計画書	15
2. 予算年次計画書	18

資料編

1. 湯原地区人口推移表	20
2. 夢ビジョン	21
3. アンケート集計結果	23
4. 湯原地区元気な地域づくり委員会の活動経過	25
5. 湯原地区元気な地域づくり委員会規約	26
6. 湯原地区元気な地域づくり委員会委員名簿	28

1. 湯原地区元気な地域づくり計画の意義

(1) 元気な地域づくり計画書策定の趣旨

七ヶ宿町では、年々各集落の高齢化による担い手不足の深刻化と、その進行による集落の消滅がやがて訪れて来る事態を憂慮している。そのため、今こそ各集落のコミュニティ活動をとおして、集落を元気にし、高齢者世帯でも安心して生活ができる環境づくりと地域住民が生きがいを持ってこの町で生活できる地域づくりに取り組むため、平成20年度より「七ヶ宿町元気な地域づくり交付金事業」をスタートいたしました。

この元気な地域づくり計画書は、地域が自ら考え、自ら行う地域づくりの活動を町が支援し、住民との協働によるまちづくりを推進するとともに、今後、湯原地区がどのような地域づくりを進めていくかについて、様々な観点から地域を見つめ直し、具体的な地域づくり事業を計画的に実践し、湯原地区の更なる発展と地域住民の福祉の向上を図るため作成するものです。

(2) 計画の構成

元気な地域づくり計画書は、地域づくりを行っていくうえでの基本目標と、それを実現するための基本計画、主要事業等によって構成されています。

(3) 計画の期間

この計画書は、平成22年度を初年度として、おおむね4年間（平成22年度～平成25年度）の地域づくり内容を掲載します。

(4) その他

基本計画の主要事業等については、湯原地区元気な地域づくり委員会や湯原地区自治会等において毎年見直しを行い、社会情勢の変化や地域住民のニーズに対応した計画とします。

また、平成26年度以降の地域づくりの在り方についても検討を重ねてまいります。

2. 湯原地区の概要

(1) 位置、人口・世帯数・就業人口の推移等

①湯原地区の位置及び歴史的背景

七ヶ宿町の西部に位置し、西から、荒町・仲町・東町・田中の4つの地区に分けられています。その中心部は東経140度19分、北緯38度0分にあり、東は町内峠田地区、南は福島県福島市と隣接する町内稲子地区、西は山形県高島町二井宿地区、北西は山形県上山市檜下地区と隣接する町内干蒲地区と接して、奥羽山脈の懷に抱かれております。



地区の東西を国道113号線が走っているほか、県道上山七ヶ宿線が干蒲地区を通して上山市へ、町道湯原稲子線が稲子地区で国道399号線に合流しています。上山市との境界の鏡清水を水源地とする白石川は、西から東に地区を流れ、七ヶ宿ダムを経て阿武隈川に合流し、太平洋に注いでいます。

公共交通機関の町営バスは、役場がある関地区と1日8往復運行しており、朝夕の小中学生の通学やお年寄りの移動手段に利用されています。

藩政時代は、峠田・干蒲・稲子地区も含み「刈田郡山中通り湯原村」の中心宿場で、参勤交代のため奥羽十三大名が往来し、幕府領だった屋代郷(山形県高島町)からの御城米が運ばれました。また、仙台藩の藩境に位置するため、人馬や物資の出入りを取り締まる湯原御番所や湯原館がおかれた交通の要衝の地でした。

湯原という地名が歴史的に登場するのは、中世後期の天文7年(1538)の伊達氏の領地、屋代郷の一部として「ゆの原」の地名が出てきます。

②人口・世帯数の推移

(国勢調査)

区分	M17	S8	S25	S45	S60	H7	H17
人口	—	1062	1041	668	445	385	306
男	—	—	—	315	214	187	141
女	—	—	—	353	231	188	165
世帯数	85	144	163	164	144	123	111

③就業人口の推移

(国勢調査)

国調年	農業	林業	建設業	製造業	サービス業	公務員	その他	合計
S50	123	43	6	53	35	11	31	302
S60	73	25	37	60	35	12	25	267
H7	41	7	32	31	34	14	28	187
H17	16	3	12	20	7	9	43	110

(2) 産業、教育

①産業

湯原は寒冷積雪地帯の山間地であり、江戸時代は、山中七ヶ宿街道の宿場であったため僅かな農地を耕作する傍ら宿屋を営んでいたり輸送業に携わっていました。明治以降になると参勤交代の廃止や東北本線・奥羽本線の開通により山中七ヶ宿街道も人びとの往来や物資の輸送量も減り、宿場は衰退して行きました。明治中頃からは養蚕や炭焼きが盛んになり、特に、炭焼きは、国有林の払い下げを受け、最盛期には8割の農家が製炭業に従事し七ヶ宿で最大の生産を誇っていました。

農業は、稲作が昭和30年代より機械化が進み生産技術の向上と共に、農業経営を支える柱となりました。もう一方では、従来から稲作栽培の補完とされていた畜産業が、町全体で昭和50年頃には農業粗生産額の半数以上を占めるようになり地区内でも酪農を農業経営の中心にする農家が多くなりました。

平成8年度より中山間総合整備事業が行われ3地区で合わせて25haのほ場整備が終了し農業経営基盤が確立されましたが、最近では、ご多分に漏れず農業従事者の高齢化と後継者不足のため、農家戸数は激減し、条件の悪い農地は耕作放棄地となってしまいました。

現在は、中山間直接支払制度による湯原集落協定が11年目を迎え、認定農業者等を中心に水源の町として自然環境を活用したブランド米「七ヶ宿源流米」の栽培に積極的に取り組んでいます。また、湯原地区内には2軒の蕎麦屋がありますが、合わせると約22



haの蕎麦を栽培しております。

かつて湯原の主幹産業は農林業でしたが、社会環境の変化に伴い大きく様変わりしました。今後は、七ヶ宿町の長期総合計画に基づく産業振興策と連動して、元気な地域づくりを推進するためにも、若者が定住し従事できる魅力ある産業へと結びつけることが大きな課題です。

②教育

湯原地区の学校教育は、明治政府によって明治5年(1872)「学制」が發布され、翌年の明治6年に東光寺境内に「湯原小学校」が開校し、東光寺住職が教師を務めていました。その後、湯原尋常小学校、七ヶ宿尋常小学校、湯原尋常高等小学校、湯原国民学校と政治や社会環境の変化に伴い校名を変更し、現在137年目を迎えました。生徒数は湯原小学校本校では、戦後の昭

和26年に162人をピークに減少の一途をたどり、昭和42年には104人となりました。干蒲・峠田分校の統合によって昭和43年には171人となりましたが、その後、昭和52年62人、昭和58年43人と激減し一学級平均10人を割ってしまいました。

平成22年度の生徒数は24人となっており、1学年から6学年まで全て複式学級となっています。



(昭和41年の湯原小学校)

中学校は、昭和22年「学校教育法」が施行され、6・3制がスタートし湯原中学校が開校しました。当初は小学校校舎を間借りして授業が行われましたが、学区民の協力で昭和26年に小学校裏手の国有林を譲り受けて校舎が建設されました。生徒数は昭和25年が157名で最も多く、昭和44年には101人となり昭和58年に18人となってしまいました。平成8年の生徒数は13人で、平成9年3月に、生徒の望ましい学習環境のためやむなく50年の歴史に幕を降ろし閉校となりました。そのため区内の中学生は平成9年4月からは新制中学校として新たに出発した「七ヶ宿中学校」に通学することとなりました。



(3) 湯原地区の文化財と地域行事等

湯原には、これまで守られてきた幾つかの文化財や伝統行事等があります。これからも大切な宝として未来に受け継ぎ、保護と活用を図っていく必要があります。

◆東光寺山門(町指定文化財)

東光寺は、寺の縁起によると、古くは現在の山形県米沢市にあり山形県高島町を経て、現在の場所より3km西の山形県境の東光寺沢にありましたが、江戸時代初めに現在の地に移したとされています。

寺は、文政10年(1827)と昭和28年(1953)に火災にあっていますが、山門は、今から約250年前の江戸時代中期に建てられた薬医門造りで往時の名残を今に止めています。町内に現存する建築物としては最も古い建築物の中に入ります。



◆公羽の句碑

「そのかみは 谷地なりけらし さよきぬた 小夜砦」

碑の上部には芭蕉翁と刻まれており、公羽を翁と読み違い当時の人びとが芭蕉の没後100年忌を記念して建てたと思われます。公羽は、本名を岸本八郎兵衛といい、庄内藩士ですが、松尾芭蕉が鶴岡に滞在したときに芭蕉に入門して以来、芭蕉と文通を絶やさず享保4年(1719)に亡くなりました。



湯原では江戸時代には多くの文人墨客が宿泊し、村人もその影響を受けて句会なども行われており、文化的な雰囲気漂わせていました。句碑はそうした人びとが建てたものです。

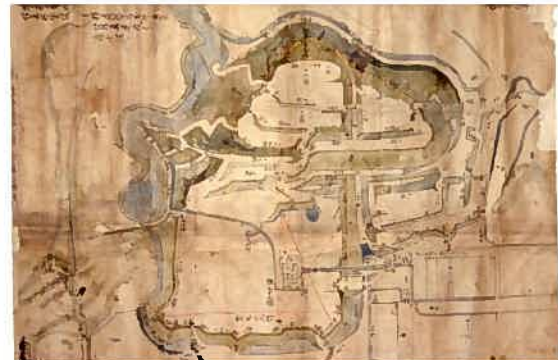
◆大峰桜(町指定文化財)

玉の木原の水芭蕉群生地上流に、木道と柵に保護された桜の木があります。新潟県新発田市の大峰山で発見された「オオヤマザクラ」と「オクチョウジザクラ」の雑種の桜です。東北地方での発見は希で、セヶ宿町の個体はその一つです。樹高の低さと株立ちの幹の形状からは、長年に渡って豪雪という非常に厳しい環境下におかれながら生育し続けてきた野生樹木の生命力を感じられます。年によっては左右の株で花の色に濃淡がでることもあり鑑賞価値も非常に高い桜です。



◆湯原館跡(史跡)

湯原小学校一帯は、昔から「お館」と呼ばれております。安永6年(1777)に書かれた「あんすいふどき 安永風土記」によると、たて上館・うわだて ひがしたて東館と二の丸があるとされています。上館と東館は小学校の校舎裏にあり、人工的に手を加えられた土塁や空堀が残っています。二の丸跡は校庭になっていますが、江戸時代は館屋があり、館の全容は昔のままの状態れんかくで中世的連廊式状山城の遺構が見事に残っている貴重な館跡です。



◆追分石(庚申塔)

「庚申塔」と正面に刻まれ、右側には「右ハもがみ海道」、左側には「左

ハ米沢海道」と刻まれ、七ヶ宿街道の道標^{どうひょう}としては最大のものです。建てられたのは明治3年(1870)で庚申塔が追分の道標と一緒にいるのは大変珍しく貴重なものです。

◆熊野神社春祭り

毎年5月3日に地区をあげての春祭りが行われます。長い冬を越してようやく訪れた春をみんなで喜び合います。昭和50年代始めに地区の鎮守様である熊野神社のお祭りとして、子ども会の行事と地域のコミュニティづくりのために行われたのが始まりです。当初は、地区毎に創意工夫した樽神輿^{たるみこし}を創って区内を練り歩きましたが、今では若者の本神輿と子ども樽神輿だけとなってしまいました。それでも、地区民の無病息災と五穀豊穰を願い、若者が威勢よく、そして誇らしく神輿を担いで地域を練り歩く姿は、地区民にとって頼もしくあり喜びの時です。



◆湯原夏祭り

お盆は帰省客で賑やかになります。以前は、青年会が主体となりお盆中の3日間は毎晩盆踊り大会を行っていましたが、その後、青年会に変わって消防団がお盆を賑やかに盛り上げてきました。時代と共に、内容や開催日数に変化がありますが、現在では、自治会、消防団、各種団体の代表者で実行委員会を結成し短い夏をみんなで楽しく過ごします。何と言っても夏祭りを支えるのは、元気な湯原を象徴する若者集団の消防団です。



◆学校・学区民合同運動会

平成9年9月、湯原小学校校庭を会場に第50回湯原学区民合同体育祭が行われました。峠田・湯原・干蒲・稲子地区民が一堂に集い、まさに学区挙げての大運動会でした。しかし、この年の3月で湯原中学校が閉校になってしまったため、最後の湯原学区民合同体育祭として半世紀に亘る歴史に幕を降ろしたのでした。現在のような湯原小学校が中心になり行われる「学校・学区民合同運動会」になったのは、平成10年からです。小学生の徒競走や演技に大きな声援をおくり、地区対抗の種目で大いに会場全体が盛り上がる歴史は今でも受け継がれております。

3. 元気な湯原をつくるための意識調査にみる地域住民のニーズ

元気な湯原をつくるためのアンケート調査を、平成21年1月から2月にかけて実施しました。このアンケート調査では、中学生以上の方（264名）を対象に、湯原に関する意識や地区を点検してもらい、元気な湯原の将来についての計画書を作成するための考えや提言を把握するために行いました。

これらの調査の結果は、「湯原地区元気な地域づくり委員会」における検討や地区の振興に向けての対策に活用いたしました。

回答率は60%（159人）で、回答者は次の様な構成となっています。

- 回答者の年齢別割合は、20歳以下5%、21～39歳16%、40～64歳29%、65～74歳15%、75歳以上35%となっています。
- 回答者の49%が男性で、51%が女性です。
- 回答者の地区別割合は、荒町31%、仲町31%、東町23%、田中15%となっています。

(1)湯原の宝物は？

「あなたが考える湯原の宝物は何ですか。」の問に対して、次のような順となりました。（複数回答）

- ①自然に恵まれた豊かな環境（水・空気・景色・山の恵み）…105名
- ②人の絆、近所付き合いが良いところ……………23名
- ③子供、素直な子供、礼儀正しい子ども達の笑顔……………14名
- ④湯原小学校……………11名
- ⑤お祭り（春祭り・夏祭り）……………11名
- ⑥水芭蕉……………9名
- ⑦東光寺（山門も含む）……………9名
- ⑧熊野神社……………8名
- ⑨ホテル（ヒメボタル・ヘイケボタル・ゲンジボタル）……………4名
- ⑩地震や水害が少なく安心して暮らせるところ……………3名



湯原の宝物は、自然に恵まれた豊かな環境（水・空気・景色・山の恵み、ホテル）が何と云っても一番の宝物だという人が多数を占めています。また、素直な子どもや近所付き合いの良さを挙げていることは、人柄の良い人が地域の宝であることもうれしいことです。

開校してから137年目になる湯原小学校は、地域の文化や心のりどころで、子ども達を中心に春祭りや、夏祭り、運動会が行われていることも地域の宝物です。

(2)湯原で何を残したい？

「湯原でこれからも残しておきたいものは何ですか。」の問に対して、次のような順となりました。

①小学校や保育所	45名
②豊かな自然	29名
③お祭り(春祭り・夏祭り)	25名
④人との付き合い	11名
⑤水芭蕉	9名
⑥合同運動会	8名
⑦診療所	8名
⑧郵便局	8名
⑨東光寺	6名
⑩きれいな水	5名



宝物と同じような回答の傾向が見られます。地域の宝物だからこそ当然、後世に残したいものだと思います。また、多くの人が小学校や保育所の存続を望んでいることが伺えます。

(3)湯原の好きなところは？

「あなたは湯原のどんなところが好きですか。」の問に対して、次のような順となりました。

①美しく豊かな自然	29名
②人情味があって、優しく温かい	18名
③夏が住みよい	8名
④団結力があるところ	6名
⑤近所の交流、仲がよい	5名
⑥のんびりと暮らすことが出来る	4名



やはり、「宝物」、「残しておきたいもの」と同じように、美しく豊かな自然が何と言ってもダントツです。豊かな自然環境は、豊かな心を持った子どもを育て、人間性を養います。そのためには、自らの手で豊かな自然環境を守り育てていくことが重要です。人情味があって優しい人柄と団結力も湯原にとって「宝物」でありこれからの元気な地域づくり計画にとって重要なポイントになると思われます。

(4)元気の湯原になるために足りないものは？

「湯原が元気な地区になるには何が足りないと思いますか。」の問に対して、次のような順となりました。

①若い人、若い人のまとまり	53名
②仕事場、働くところ	12名
③子ども	11名
④活気・商業の活気	6名
⑤コミュニケーション(人との交流)	5名



湯原を元気にするには若い人の力や団結が必要であることを感じているようです。そして、若い人の手で地域活動や事業に取り組むこと、そのためには働く仕事場があることや若者の定住化が重要であることが伺えます。

(5)若者の定住に必要なものは？

「湯原に若者が定住するために何が重要だと思いますか。」の問に対して、次のような順となりました。

①仕事・職場	102名
②自宅から通勤できる場所(職場)	7名
③住宅	5名
④何でも買える店	5名
⑤ブロードバンドや光通信	5名



少子高齢化が進み地域の過疎化に拍車を掛けている現状を目の当たりにしてきた人たちは、何と言っても若者の働く場所が必要であることを痛切に感じているようです。元気な地域づくり交付金事業を通して地域の宝物を活かした特産物の開発や新たな就労の場の確保に、取り組む必要があります。そのために都市住民との交流活動事業や若者の定住化を図る活動も推進する必要があることを物語っています。

(6)不安を感じていることは？

「あなたが今、不安を感じていることは何ですか。」の問に対して、次のような順となりました。

①老後	14名
②若い人が減っていくこと	13名
③高齢化	12名
④人口減少	12名
⑤雪下ろしや雪片付け	12名
⑥跡取り、後継者がいなくなる	5名
⑦過疎化	5名

⑧仕事がないところ 5名



高齢化率50%を越えた湯原では、数字的に見れば限界集落と呼ばれる部類に入ります。高齢化による老後の不安や積雪による生活の不安が付きまとっているのが現実です。そのためにも、こうした不安を少しでも解消するための活動を推進することが重要な地域の課題です。

現在、他の地区に先んじて、自治会、消防団、ボランティアグループ等が一体となり「湯原地区雪害防止対策本部」を設置して、不安の解消に努めていますので、持続的な活動に対する支援が望まれます。

(7)神様に何を願い事をする

「神様が『願い事を3つだけかなえてあげる』と言ったなら何を願いますか。」の問に対して、次のような順となりました。

- ①健康、家族の健康 61名
- ②雪が降らないように 21名
- ③お金が欲しい 17名
- ④湯原に温泉が湧き観光名所になる 9名
- ⑤子どもが沢山いる湯原になってほしい 8名



何と言っても健康が一番です。健康で豊かな生活を送るための知識や日常の活動を推進するためには、新たな学習や見聞が必要です。スポーツ、芸術工芸活動、料理等、身近なところから健康や生きがいつくりのための事業活動を進めることが望まれています。



※山形大学 村松先生の講演会風景

4. 地域づくりの夢ビジョン

湯原地区元気な地域づくり委員会では、湯原地区の元気な地域づくりの観点から、コミュニティ機能を維持・強化したり、地域の活動を活性化したりすることにより、みなさんが住んでいる湯原を今よりもよくしていきたいと考えました。そのため、地区の持っている総合的な力について点検し、話し合い、考え、そこから湯原の問題や課題などを明らかにし、今後の方向性（計画づくり）を見いだしていくための作業（ワークショップ）を行いました。

キーワードと作業手順は次のとおりです。

- ①住んでいる湯原を今よりもよくする。
- ②地区の住民が協力し合う。
- ③住民と行政が協働で行う。
- ④点検し、話し合い、考える。
- ⑤課題や方向性を見いだす。



(1) 部会をつくる

委員16名と役場職員6名を3部会に分け、計画づくりの具体的な作業を行うことにしました。

名 称	担 当 事 項
生活自治部会	コミュニティ活動、防犯・防災、生涯学習の推進、文化の創造と継承、体育スポーツに関すること
環境福祉部会	生活環境整備、環境美化、健康福祉、食生活に関すること
地域振興部会	産業振興、地域整備、建設に関すること

(2) 現況マップ(地区点検マップ)をつくる

部会毎に、地区の地図を広げ担当事項毎に現在の姿(施設、文化財、行事など)を点検し記入していきました。

(3) 予想マップをつくる

現況マップと同じように、おおよそ10年後の予想マップをつくりました。

(4) 夢ビジョンをつくる

部会毎に、現況マップ(地区点検マップ)、予想マップとアンケート調査結果を参考に夢ビジョンをつくりました。

そして、夢ビジョン実現のための具体的な事業計画を委員会全体で話し合いました。



※夢ビジョンは資料編に記載しています。

第2章 基本構想

1. 地域づくりの基本理念

《こんな湯原地区にしたい…》

大切に守ってきた文化や伝統を後世に残したい
子どもたちからお年寄りまで、楽しく交流できる地域にしたい
自然に恵まれた豊かな自然環境を守っていききたい
働く場所があり仕事に生きがいを感じる地域にしたい
誰もが健康で、元気あふれる地域にしたい
若者の力や団結力のある地域にしたい



《そのためには…》

伝統を生かした湯原づくり
地域のふれあいを大切にする湯原づくり
明るく住みよい、緑美しい湯原づくり
未来に向けた湯原づくり をめざします



《地域づくりの合い言葉は…》

未来へ受け継ぐ郷 ~ I LOVE ゆのはら ~



《地域づくりの主役は…》

湯原のみなさん、お一人おひとりです

2. 地域づくりの基本目標

伝統を生かした湯原づくり

誇りや愛着を持って暮らすことのできる湯原づくりのためには、一人ひとりが地域の文化をよく知り、独自の伝統文化を大切に守り、未来に引き継いでいくことが大切です。湯原には先人が築いてきた貴重な文化や伝統がたくさんあります。それらを大切に思い、後世に伝える取り組みを推進します。

地域のふれあいを大切にする湯原づくり

湯原の近所付き合いは今も続いており、このコミュニティの力を活かし、世代間交流や他団体との連携を通じて、だれもがいいきいきと生活できるような事業を展開します。

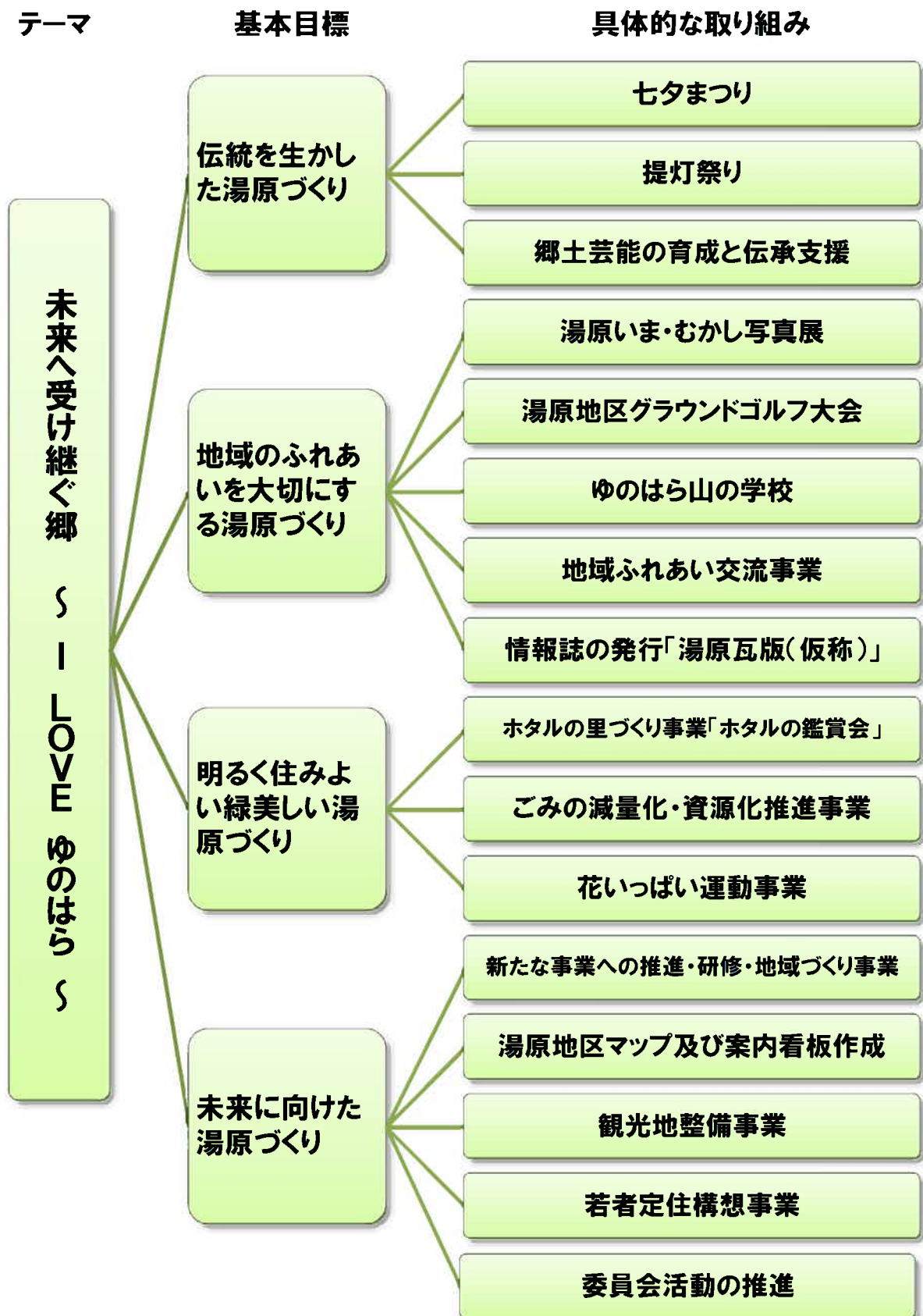
明るく住みよい、緑美しい湯原づくり

湯原は豊かな自然に囲まれた優れた生活環境を形成しています。自然環境を守り育てるためには、一人ひとりの取組と、それが積み重なって大きな力となるように、地域ぐるみで活動を進めていくことが重要です。この豊かな自然環境を守り、緑美しい湯原をつくることを目指します。

未来に向けた湯原づくり

より良い湯原づくりを推進するためには、地域のみなさんが主役となって、地域資源の発掘や若者の集える事業など、地域がなお一層の力をつけることが大切です。そのために、地域のみなさんと考え、明るい未来に向けた湯原づくりを推進します。

3. 地域づくりの体系図



第3章 事業計画等

1. 湯原地区元気な地域づくり事業及び活動計画

区分	事業名	年度	目的	内容	予算額
伝統を生かした湯原づくり	七夕まつり	H23~H25	失われてしまった湯原独自の伝統文化である行事を復活し、湯原らしさを醸し出す。	七夕まつりを昔のように各家庭で飾り付ける。以前、湯原ではどの家庭でも、七夕の日(8月7日)は、竹の代わりに、もみじの木に七夕飾りや願い事を短冊に書いて付けた。翌日は、ケガレを払うため川に流した。	消耗品 30,000円
	提灯祭り	H22	失われてしまった湯原独自の伝統文化である行事を復活し、湯原らしさを醸し出す。	各家庭にある提灯を軒下などに吊り下げる。昔は、8月23日の秋葉山講の祭りとして行われ、各家では軒先に大小5・6個の提灯を吊り下げ、夜更けまで見物にみんなで出歩いた。	提灯代 4,100円×100戸 410,000円
	郷土芸能の育成と伝承支援	H22~H25	地区の郷土芸能として位置づけ伝承活動を支援する。	これといった郷土芸能がない湯原において唯一、一部の人で伝承されてきた大黒舞の伝承活動を地区挙げて支援し、後継者育成に務める。	備品購入代 80,000円
地域のふれあいを大切にする湯原づくり	湯原いま・むかし写真展	H22	温故知新。物の豊かさより人びとの温かさや賑わいがあった時代を振り返り、これからの湯原を考える。	老人クラブを中心に各家庭から集めた昔の写真を展示する	現像代 40,000円
	湯原地区グラウンドゴルフ大会	H23~H25	世代間交流と地域のコミュニティづくりを図る。	湯小校庭や元湯中校庭を会場に、子どもからお年寄りまでを対象とした大会	景品代 120,000円
	ゆのはら山の学校	H23~H25	都市住民との交流をとおして、地区の活性化に努めるため、農林業などを体験する「ゆのはら山の学校」を開催し、新しい「ふるさと湯原」づくりを目指す。	農林業体験や自然体験をとおした都市住民との交流事業	活動費 300,000円
	地域ふれあい交流事業	H22~H25	コミュニティセンターを拠点として、昔遊びやレクレーション運動等を通じた世代間交流を図る。	子ども・お年寄りが交流できるよう「あやとり」「昔話」「レク運動」の実施。	活動費 40,000円
	湯原地域づくり情報紙の発行仮称「湯原瓦版」	H23~H25	地区民の参画による元気な地域づくりを推進するために情報を共有する。	身近な情報や元気な地域づくり活動の様子などを掲載した地域情報紙を発行する。事業の周知や依頼も含む	印刷代 60,000円

区分	事業名	年度	目的	内容	予算額
明るく住みよい緑美しい湯原づくり	ホタルの里づくり事業 「ホタルの観察会」	H22~H25	ホタルの観察会を通じて、湯原の自然に関心を深めてもらい、自然環境を大切にする地域づくりを目指す。	生息地の再確認、昔ながらのホタルの楽しみ方を体験する。	燃料代 70,000円
	ごみの減量化・資源化推進事業	H23~H25	現在、取り組んでいるごみ減量化や資源化活動について、声かけ運動の支援や、地球にやさしい石けん作り体験を通じて、地区一体となったエコ・リサイクル活動に取り組む。	アルミ缶や古紙回収時に防災無線等による声かけを行い、多くの資源回収に協力する。また、地球にやさしいエコ石けん作り教室を開催する。	委託料 90,000円
	花いっぱい運動事業	H23~H25	湯原地区を明るく住みよい緑と、花いっぱいの美しい生活環境をつくる。	毎年行われている「花いっぱい運動」について、地区民が積極的に参加できるよう声かけ運動を行い、皆で協力し合いながら花植えを行う。また、各家庭の花壇の整備や管理も地区民挙げて取り組む。	活動費 150,000円
未来に向けた湯原づくり	湯原マップ及び案内看板作成	H22~H24	地区に残された歴史や行事を保存していく。	1) 観光を目的としたマップ作成歴史の跡や行事等を盛り込む	印刷代 200,000円
	湯原マップ作成②		日常生活や非常時に役立つ地図を作成し、地域の再確認を行う。	2) 住民の生活に利用できるマップ作成ゴミ集積場や防火水槽等を盛り込んだマップ作成	
	観光地整備事業	H23~H25	地区の活性化を図り、きれいな自然を残していくための地域づくりを行う。	1) 観光マップ作成に伴い、馬頭観音等の周りの整地 2) ホタルの里の存、管理 3) カジカの里づくり(河川のアピール)	委託料 90,000円
	若者定住構想事業	H23~H25	若者たちが地域に残りたくなる地域づくり。	1) 若者が集える事業、場所等の研修や検討を行なう	活動費 90,000円
	新たな事業への推進・研修・地域づくり事業	H23~H25	地区の活性化と担い手の育成を行う。	現在、当地区においては、商店が1軒あるが今後の推移が懸念される。また、空き家になった水口屋は茅葺き屋根や土間などが未だに残っている建物で再活用し地域おこしが出来ないものなのか。遊休農地の再利用も含め検討していくための研修等を行なっていく。	次ページに続く

区分	事業名	年度	目的	内容	予算額
未来に向けた湯原づくり				1) 現在、町のお土産品にもなっている「油まんじゅう」を後継者との話し合いやレシピ作成により地区の特産品にしていく等の検討をしていく。	活動費 150,000円
				2) 水口屋の再利用を検討し、グリーンツーリズム（ゆのはら山の学校）や農家レストランなどを行なうための拠点にし、地域活性化を図るための研修会や利用者の呼びかけを行なっていく。	
	委員会活動の推進	H22~H25			会議費 80,000円



現況マップの発表会風景



部会の話し合い風景

2. 予算年次計画書

単位：千円

事業名	H22	H23	H24	H25	計
-----	-----	-----	-----	-----	---

【伝統を生かした湯原づくり】

七夕まつり	0	10	10	10	30
提灯祭り	410				410
郷土芸能の育成と伝承支援	50	10	10	10	80

【地域のふれあいを大切にする湯原づくり】

湯原いま・むかし写真展	40				40
湯原地区グラウンドゴルフ大会	0	40	40	40	120
ゆのはら山の学校	0	100	100	100	300
地域ふれあい交流事業	10	10	10	10	40
湯原地域づくり情報紙の発行仮称「湯原瓦版」	0	20	20	20	60

【明るく住みよい緑美しい湯原づくり】

ホテルの里づくり事業「ホテルの観察会」	10	20	20	20	70
ごみの減量化・資源化推進事業	0	30	30	30	90
花いっぱい運動事業	0	50	50	50	150

【未来に向けた湯原づくり】

湯原マップ及び案内看板作成	0	100	100		200
観光地整備事業	0	30	30	30	90
若者定住構想事業	0	30	30	30	90
新たな事業への推進・研修・地域づくり事業	0	50	50	50	150
委員会活動の推進	20	20	20	20	80
合 計	540	520	520	420	2,000